

## 愛席

Let's make the meeting place!

シンガポール 人口問題班

2年2組 1番 小川 海斗

12番 有吉 柚葉

14番 井手 佑梨香

31番 久野 真由奈

32番 姫野 栞里

指導教員 長尾 俊太郎

### 1. 背景

シンガポールの人口について調べていくと、日本と人口構成が似ていることが分かった。そこで、シンガポールと日本の人口を比較しながら研究を進めた。その中でも、少子化が進んでいるという点に着目し、少子化に深く関わると考えられる未婚率と出生率について調べることにした。調べていく中で、日本もシンガポールも未婚率が上がっていることがわかった。そこで、日本とシンガポールの結婚支援への取り組みについて調べた。日本では、伝統的なお見合いや合コンの他、最近では「相席」と呼ばれるものがあることがわかった。一方、シンガポールを調べた結果、国営の結婚支援政策があることがわかった。SDU、SDS、SDU-SDS と呼ばれる（SDS、SDU-SDS については、「6 シンガポールの少子化の現状と対策」で詳述）。しかし、婚姻率の上昇には至っていない。そこで、私たちは日本で行っている相席に着目し、シンガポールに導入することを考えた。

### 2. 現状

#### (1) 日本とシンガポールの人口構成の推移

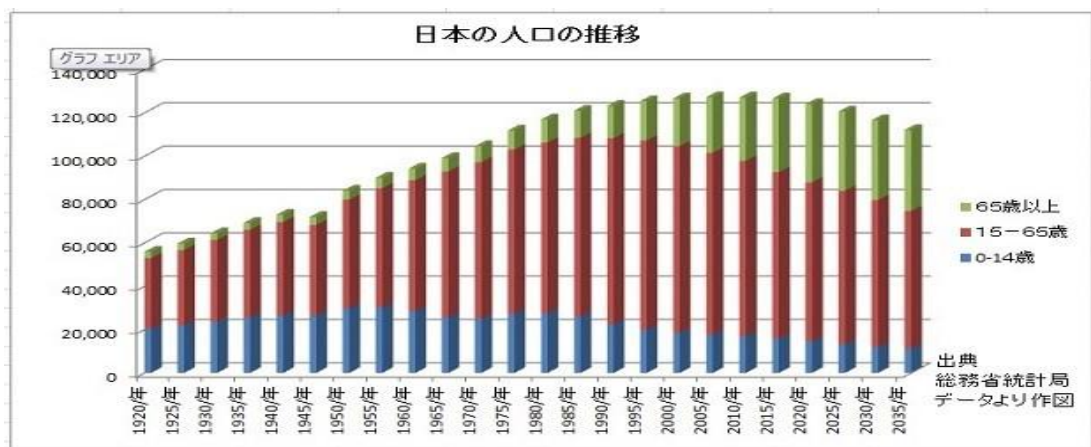


図1

図1は日本の人口の推移を表したグラフである。2010年の1億2806万人から長

期の人口減少過程に入り、2030年の1億1662万人を経て2048年(平成60年)には1億人を割って9913万人となり50年後の2060年には8674万人となることが予想されている。14歳以下人口は減少を続け、65歳以上人口が増加し続けると予想されている。

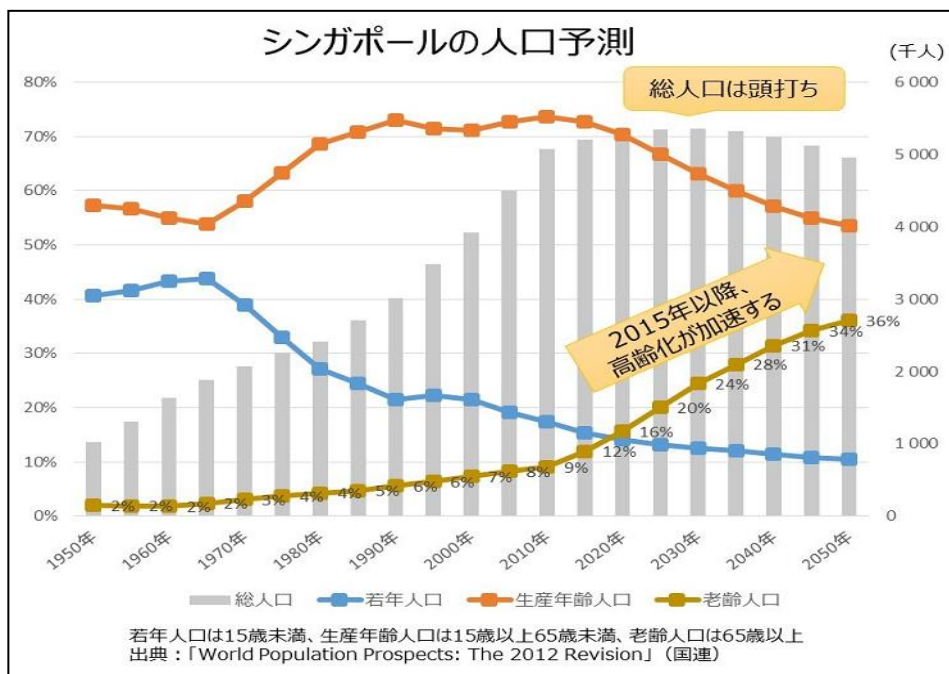


図2

図2はシンガポールの将来人口の推移を予測したグラフである。2030年頃から長期の人口減少過程に入ることが予想されている。さらに15歳未満の若年人口は減少を続け、逆に65歳以上の高齢人口が増加し続けると予想されている。

以上のように、日本もシンガポールも人口減少、少子高齢化が進んでいることがわかる。このまま人口減少、少子高齢化が続くと、生産年齢人口(労働力の中核となる15歳から64歳の人口)の減少による経済成長の停滞が懸念される。

(2) 日本とシンガポールの合計特殊出生率の推移

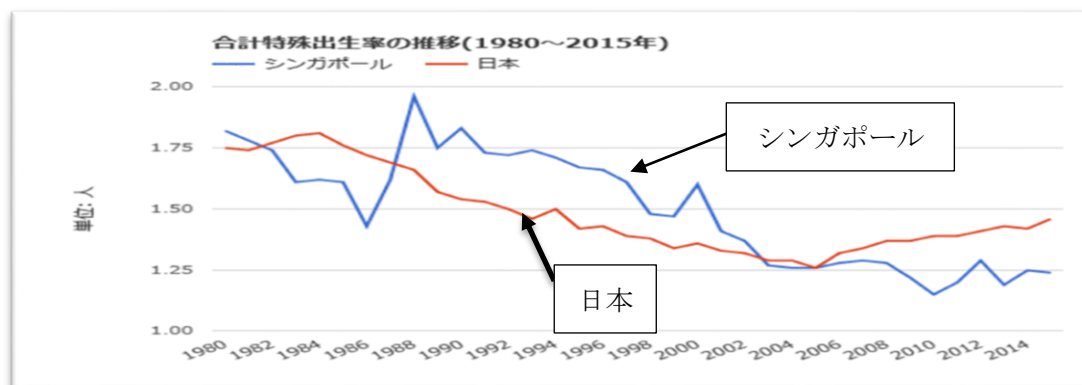


図3 出典) WOLED BANK –Date Indicators.

図3はシンガポールと日本の合計特殊出生率の推移を表したグラフである。合計特殊出生率とは、1人の女性が一生の間に生む子どもの数のことである。この数値が2.08を下回ると、人口減少が始まるとされている。2014年時点で日本は1.42 シンガポールでは1.25となっており両国とも2.00を下回っている。日本は希望出生率を1.8と掲げているが最新の将来推計人口では出生率が今後1.42～1.44で推移する見通しが示されている。そこで日本とシンガポールはそれぞれ変わった少子化の対策を行っている。

### (3) 日本の少子化の現状と対策

日本では、核家族や都市化の進行等により、仕事と子育ての両立の負担感が増大していることや、子育てそのものの負担感が増大していることなどから出生率が低下している。1994年にエンゼルプランという計画が立てられた。エンゼルプランは、子育てを夫婦や家庭だけの問題にとらえるのではなく、国や地方公共団体をはじめ、企業・職場や地域社会も含めた社会全体で子育てを支援していくことをねらいとし、政府部内において、今後10年間に取り組むべき基本的方向と重点施策を定めた計画であった。エンゼルプランを実施するため、保育所の量的拡大や低年齢児(0～2歳児)保育や延長保育等の多様な保育サービスの充実、地域子育て支援センターの整備等を図るための「緊急保育対策等5か年事業」が策定され、1999(平成11)年度を目標年次として、整備が進められることとなった。その後新エンゼルプランというものも制定された。

しかしその二つの計画はあまり知られることがなく成果もあげられず政策の見直しが考えられている。ほかにも対策をいくつか行ってきたが少子化改善に貢献できた対策はあまりないと考えられている。

### (4) シンガポールの少子化の現状と対策

シンガポール政府は少子化対策として、独身の人に対しての結婚支援や出産奨励金の支給、子育て支援補助金の支給など国民へ様々な手厚い対策を打ち出し続けている。シンガポールは、日本以上に深刻な少子化が進んでいて合計特殊出生率1.19%(2014年)は、諸外国と比べてかなり低い。出生率の低下による少子化の動きは、国力低下に繋がる深刻な問題である。シンガポール政府の少子化対策としてベビーボーナス制度がある。ベビーボーナス制度とは、第一子・第二子の誕生には、8000シンガポールドル(60万円くらい)、第三子以降には、10000シンガポールドル(80万円くらい)が支給されるものである。この数字は、2016年時点であるが、ベビーボーナス制度の支給額は、年々、増加している。その他、育児休暇や、子供を産んだあとの税額排除など、様々な施策を実行している。生活費や教育費などの経済的負担を軽くするために、様々な財政的支援策が行っている。しかしながら、現状としては、図3からわかるように出生率は伸び悩んでいる。原因としては、男性の家事、育児への参加不足、女性の就業率の上昇にもかかわらず、出産や育児を支える社

会的支援環境が未だに整っていないことなどが考えられる。

(5) 日本とシンガポールの未婚率の推移

年齢グループ (歳)	シンガポール未婚率の割合			
	男性		女性	
	2003年	2013年	2003年	2013年
25-29	70.1	81.2	45.6	61.1
30-34	33.1	39.1	20.1	26.3

図 4

図 4 はシンガポールにおける未婚率の割合である。2003年から2013年の間に25歳から29歳、30歳から34歳の男女いずれにおいても増加している。シンガポールでは、高学歴化が進んでおり幼少期からの教育が熱心なため、奨学金をもらいながら大学に進学する若者が増えている。社会人になっても、奨学金のローン返済があるため、高収入であるにもかかわらず、結婚に意識がいかず未婚率が上がっているというのが現状である。この裏には仕事へのプレッシャーが強く、若くして仕事で成果を上げれば昇進や高い給料がもらえることが可能なため、仕事を優先して結婚を後回しにする男女が多いと考えられる。

図 3 でみたように日本とシンガポールの合計特殊出生率の低下の原因の1つとして、図 4 でみたように未婚率の上昇があるといえる。少子化対策の方策として、結婚を希望する者が結婚しやすい環境を整えることが必要である。もちろん、結婚や出生は個人の考え方や価値観に関わる問題であり、個人の自由な選択が最優先される。しかし、結婚を希望しながらも叶えられない状況があるとすれば何らかの対策が必要である。

(6) シンガポールにおける結婚支援策

シンガポールは結婚支援の一環のひとつとして1984年に大学卒業者を対象とした社交やお見合いを提供する機関 SDU(Social Development Unit)を発足した。そして SDU を発足した翌年 SDU と同様の内容の機関である SDS(Social Development Service)を大学卒業者以外を対象として発足した。2009年、より多くの機会を独身者へ提供するために SDU と SDS とを合併し、「SDU-SDS」とした。約9万人が登録している。また約25年間の両機関で18万6千人が結婚している。

ほかにもシンガポールには、通称 SDN と呼ばれる、少子化対策のために設置された政府機関・Social Development Network（社会開発ネットワーク）というものがある。シンガポール在住の 20 歳以上が、登録できるサービスで、このページにいつ訪れても、婚活パーティーや、料理教室など、男女の出会いを期待できる、イベントなどを掲載している。こちらに掲載しているイベントの多くは、割安で参加が出来ることが多い。なぜなら、婚活事業者や、出会い系パーティー事業者には、SDN から、補助金という形での支援が入るからである。その他、この web サイトには、デートで異性を攻略する方法や、恋愛コラムなどが、掲載されている。シンガポールには、国営の出会い系サイトが設置されている。

さらに、シンガポールでは結婚を促進するために、結婚した夫婦に対して政府から HDB という公営住宅が提供される。HDB には結婚した夫婦の場合、21 歳から新築の公営住宅が提供される。一方、独身の場合は、公営住宅の提供は 35 歳からとなり、提供される公営住宅は中古物件となる。

### (7) 結婚に対する意識

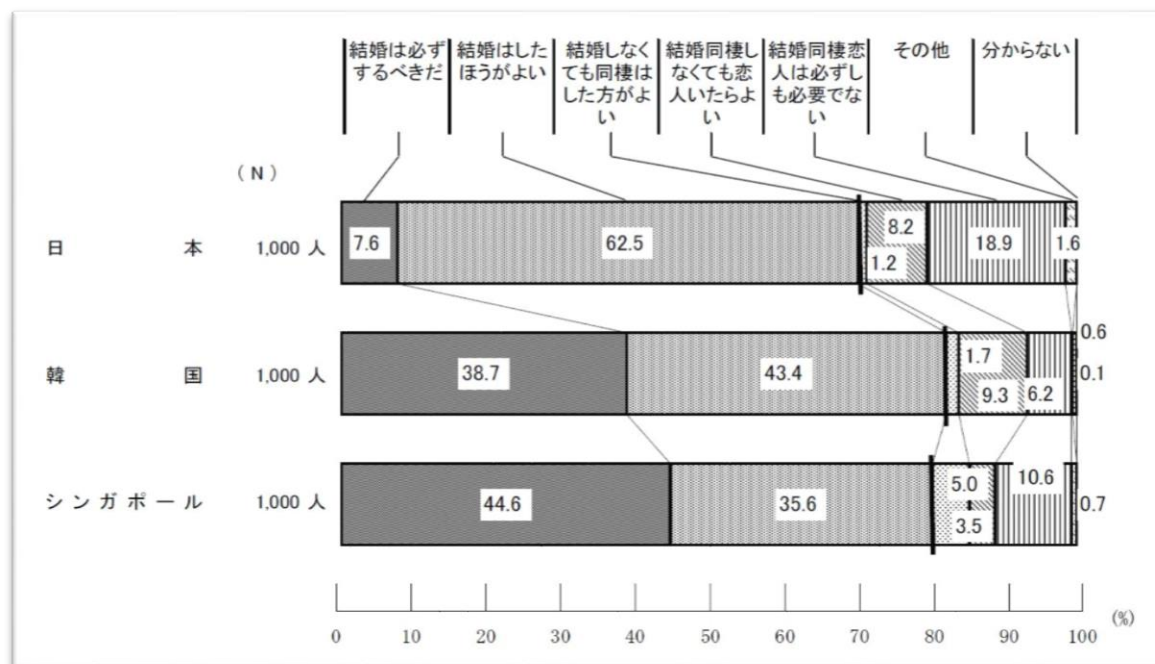


図 6 National Population Secretariat Media Release on 15 July, 2008

図 6 は、シンガポールの未婚者に対して行った「結婚に対する意識」について尋ねたアンケートの結果である。「結婚は必ずすべきだ」という回答が、44%であり、「結婚はしたほうがよい」という回答（35.6%）と合わせると約80%の人々が結婚はすべきだと考えていることが分かる。

結婚しない最大の理由（第5位まで）	2007（順位）	2004（順位）
まだ相応しい相手に出会えていないため	1	1
仕事や勉強にまだ集中していたいため	2	2
自由と快適さを失いたくないため	3	3
結婚にはまだ若すぎるため	4	5
結婚にはまだお金がないため	5	4

図7 出典 National Population Secretariat Media Release on 15 July, 2008

図7は図6と同じく、シンガポールの未婚者に対して行った「結婚に対する意識」について尋ねたアンケートの結果である。「結婚しない最大の理由」の第1位は2004年も2007年も「まだ相応しい相手に出会えていないため」であった。図6、図7からわかるように、シンガポールの未婚者は結婚すべきだと考えているが、まだ相応しい相手に出会えていないために結婚をしていないということがわかる。そこで私たちは日本でも最近注目されている「相席」をシンガポールに導入することを提案する。

### 3. 提案

#### (1) 「相席」とは何か。

「相席」とは彼氏、彼女が欲しい人はもちろん、友達作りや楽しく飲食をしたい人などが集まる飲食店のことである。同性同士のグループ2~4名で店に訪れ、知らない異性のグループとお酒を楽しむスタイルである。女性の料金が0円という点で女性には足を運びやすいシステムとなっている。同性同士のグループは友人同士であり、知らない異性のグループと会う点では合コンと同じであるが、幹事が知り合いに声をかけ人数調整や日取り・場所の設定をする必要がなく、普段なら知り合えない職種の人とも会えるかもしれないという点で人気となっている。

「相席」のシステムは、まずは年齢など簡単な質問をされた後、女性グループはそのまま席に着く。男性グループは、年代などおおよそ話が合いやすいように事前に店のスタッフが調整をしてくれる。席に着くとお互いに自己紹介して相席カフェのスタートとなる。退席も自由に連絡先を教えることを強要されることもないのでプレッシャーもなく気軽に楽しめるのが利点である。「相席カフェ」は2014年3月東京・赤羽にオープンして以来、順調に店舗数を増やし、2016年3月に75店舗を突破している。相席がこの二年間で急激に人気が高まったと考えられる。

#### (2) 「相席」による婚姻率の上昇

図6で見えてきたように、シンガポールでは日本よりも結婚すべきだと考えている男女が多いこのことからすればシンガポールでは日本以上の結婚率の上昇が見込まれる。

日本において「相席カフェ」を利用する年齢比率は、20歳~29歳では男性が62%、女性は

80%と女性の割合が高くなるのに対し、30歳～39歳は男性が33%、女性は18%と男性の割合が高くなっている。また「相席カフェ」を利用した6割以上の人が2回以上来店している。一度「相席カフェ」を利用した人は、新たな出会いを求めて再度来店しリピーターとなっている。シンガポールにおいても「相席カフェ」を取り入れることによって新たな出会いが増え、結婚するに相応しい相手を見つけられる可能性が高くなる。

### (3) 「相席」の利点と欠点

「相席」の利点については以下のような意見が寄せられている。

- 失敗しても一度しか会うことがないから安心できる。
- ◇ 婚活のきっかけや気分転換になる
- ◇ コミュニケーション能力が向上する。
- ◇ 人数制限があるので相手を絞りやすい。
- ◇ 友達感覚で話せる。
- ◇ 時間制限がない。
- ◇ 気になる人を誘いやすい。

#### 出典 very good

一方、「相席」の欠点については以下のような意見が寄せられている。

- ◆ 知らない相手に自分のことを話すことができない人もいる。
- ◆ 相性の合う人の確率がわからない。
- ◆ 意識のずれが起こりやすい。
- ◆ 競合になることがある。

#### 出典 very good

さらに、犯罪に結びつくという危険性もある。例えば以下のようなことが予想されている。

- ◆ 金銭関係のトラブル
- ◆ 性犯罪
- ◆ ストーカーなどの迷惑行為
- ◆ 暴力行為や物を壊されたなどの被害事故

### (4) 「相席」の危険性に対する防止策

以上のような犯罪の危険性を防ぐためには、日本での「相席カフェ」店のルールを適用したい。そのルールとは次の通りである。

①独身者限定とする。

既婚者との交際トラブルは多く見受けられる。わたしたちの考える「相席カフェ」では独身者のみの利用とする。

②公的身分証明書の提示を求める。

氏名やメールアドレスなどの保存。年齢確認はもちろんの事、匿名性が高いとトラブルにつながる可能性が高まる。私たちの考える「相席カフェ」では初めて来店する客全員に公的身分証明書の提示、名前の確認、メールアドレスの登録を行ってもらおう。

③監視カメラを設置しておく。

トラブルの未然防止、捜査機関への情報提供や早期解決のため、監視カメラによる店内の録画を行う。悪質な行為を行った客の把握や万が一に備えて録画映像は半年間程度長期保存する。もちろん映像データの漏洩などが起こらないよう客のプライバシーの保護には万全を期すよう注意する。

④事後のトラブル相談創設。

出会った後のトラブルに備え、「相席カフェ」で出会った客に対しての相談窓口を設置する。メールや電話などで相談を受け付け、相談内容を確認し適切なアドバイスを相談者へ伝える。

## (5)詳細内容

日本の相席では男性が食事代を払い女性が無料であるその場合、立場に優劣が生じお金を払っている男性に選ぶ権利や品定めできるように感じられるため女性にとってはプライドを傷つけられるように感じられる。シンガポールの女性は日本の女性に比べて、プライドが高い人が多くみられる。そのため、シンガポールで開く相席では女性は無料ではなく少しお金を払ってもらシステムにしようとする。

主に二つのお店を営業したいと思う。

一つ目はダイニングバーを相席として営業したいと思う。なぜなら、ダイニングバーはおしゃれな雰囲気や料理がおいしいため、男女ともに気軽に立ち寄ることができる場所だと考えたからだ。営業内容として、金・土曜日の18:00～23:00に営業したいと思う。その理由として、金・土曜日で営業する利点として次の日が休みのため長時間滞在することが可能であるためダイニングバーに立ち寄る人が日～木曜日に比べ多いと考えたからだ。

二つ目は趣味カフェを相席として営業したいと思う。なぜなら、共通の趣味があることで初対面の男女でも会話が弾むと考えたからだ。営業内容として、土・日曜日の10:00～17:00に営業したいと思う。その理由として土・日曜日で営業する利点として仕事で休みの人が多いためたくさん利用客が見込めるからである。

## 4. まとめ

私たちは日本とシンガポールの人口を調べる中で両国の人口構成が類似していることが分かった。特に似ていると感じた未婚率と出生率について調べシンガポールは将来日本と同じように少子高齢化社会になることが分かった。そこで私たちは少子化と未婚化が深い関係があると考えそこに着目した。調べる中で結婚願望はあるのにもかかわらず未婚者が増加しているのが実態だった。その理由はふさわしい相手に出会えないという意見が多か



った。このことから私たちは相席を提案したいと考えた。相席とは知らない異性のグループ同士が同じテーブルを囲んで食事をしたりお酒を楽しんだりする飲食店のことです。シンガポールでは日本よりも結婚すべきだと考える男女が多いので日本以上の結婚率の上昇が見込まれる。だが、金銭トラブルなどの犯罪行為につながる可能性があり、私たちは、①独身者限定にする。②公的身分証明書の提示を求める。③監視カメラを設置しておく。④事後のトラブル相談の創設。の4つの対策を考えた。

#### 参考文献

- ・ 成果をあげる知恵と行動  
<https://leader.jp-unite.com/shoushika-2/>
- ・ 相席で本当にいい出会いはあるのかまとめ  
<http://oshimarie.com/2016/02/04/20160204/>
- ・ 楽婚の花嫁サロン  
<https://www.rakukon.com/howto/love-aisekiya/>
- ・ 内閣府ホームページ  
[http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/sankyu\\_papa.html](http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/sankyu_papa.html)
- ・ Think Nomad  
<http://junyahirano.com/archives/1164>
- ・ みんなのライフハック@DIME  
<https://dime.jp/genre/382618/>
- ・ citrus カジュアルに知性をアップデート  
<https://citrus-net.jp/article/2905>
- ・ Very good  
<http://www.verygood.la/?p=69970>